

2コマ漫画を用いて思考力を高める国語特別授業を実施

日テレ「スッキリ」(10/8)で紹介され話題の『プチ哲学』(佐藤雅彦)を用いた国語授業(小5~中3)

株式会社横浜国語研究所(屋号:ふくしま国語塾)では、2018年11月10日、特別授業を実施します。当塾在籍の小学5年生~中学3年生(約10名の男女/異学年同席)を対象とした授業です。

折しも、2020年教育改革にともなって大学入試センター試験が大きく生まれ変わろうとしています。国語についても明確な変化が予想されます。選択式(マーク式)から、記述式へ。そして、単なる文章(連続型テキスト)の読解から、図・表・イラスト等(非連続型テキスト)も含む総合的な読解へ。

そのために今求められているのは、新たなる「読解記述」の指導です。

今回当塾が行う授業は、哲学的メッセージのこめられた数コマの漫画を文章化させる授業です。まさに、新しい「読解記述」の形がそこにあります。

扱う教材は、個性的な番組(ピタゴラスイッチ等)やCMにその独創性が現れている佐藤雅彦氏による本、『プチ哲学』(中公文庫)。当塾では以前から随時この本を用いた授業を行っていましたが、最近、日テレ「スッキリ」で風間俊介氏が「人生を変えた本」として紹介し話題になっているということでしたので、改めて授業に取り入れ、それをメディアのみならず公開しようと考えた次第です。

- ・日時 2018年11月10日(土) 19:00 ~ 21:00 (120分)
- ・場所 ふくしま国語塾(所在地は最下部記載の会社所在地と同じ)
- ・対象 当塾在籍の小学5年生~中学3年生(約10名の男女/異学年同席)
- ・内容 『プチ哲学』の漫画を「ふくしま式200字メソッド」で文章化

昨今、アクティブラーニングという言葉がひとり歩きしています。ともすると、教室を児童・生徒が動き回るだけの「身体におけるアクティブさ(身体活動)」をイメージしがちですが、真のアクティブラーニングとは、見えない部分、すなわち「頭の中におけるアクティブさ(精神活動)」を呼び起こすものでなければなりません。当塾の授業は発表も討論もなく見た目には地味ですが、子どもたちの書いた文章を読めば、なるほどこれが真のアクティブラーニングなのだとご納得いただけることでしょう。

当塾では、文章化させる際に用いる「型」があります。それは、「ふくしま式200字メソッド」。朝日新聞(2018年6月30日/東京版)などでも取り上げられ、注目度が高まっているメソッドです。

今回は、これを用いて文章化する授業となります。メディアのみならず取材をお待ちしております。

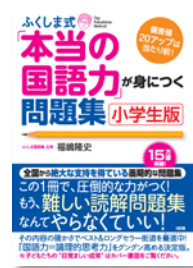
これが「ふくしま式200字メソッド」だ!

アは1なためAである。

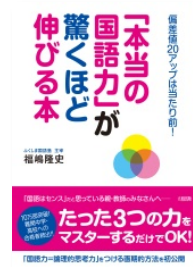
しかし、イは2なためBである。

だから、アよりもイのほうがCであると言える。

福嶋隆史
著書累計61万部



16万部



10万部

株式会社横浜国語研究所(国語専門塾経営)代表取締役 福嶋隆史(=担当)

所在地〒244-0801 横浜市戸塚区品濃町 541-3-501 | メール fukushimakokugo(at)gmail.com

URL: <http://www.yokohama-kokugo.jp/> 電話連絡をご希望の場合はまずメールにてその旨お知らせください